

き ら り

私たちは「きらり」と輝くんや

平成21年9月1日(火) 山根

二百十日

今日は二学期の始業式です。一年の中で最も長い学期です。

まだまだ残暑が続きますが、勉強に運動にしっかり頑張ってください。

さて今日は、防災の日です。今から76年前の9月1日に死傷者20万人以上、行方不明者4万人以上という甚大な被害をもたらした「関東大震災」が起きました。その教訓を生かして防災の意識を高めるため、この日に、防災訓練が行われます。

ところで、「二百十日」って知ってますか。立春(2月4日OR5日頃)から数えて210日(だいたい9月1日頃)にあたるころです。

この時期は、ちょうど「稲」の果時期で、台風が日本に襲来する時期とも一致しているのです。農家にとっては、厄日(やくび:災いに遭う恐れがあるかもしれない)として、警戒されている日です。私も小さい頃「この二百十日頃は台風がきて恐ろしい日なんだ」とよく親から聞いていました。しかし、最近はどうもそうではなさそうです(210日頃に日本に上陸し被害を及ぼした台風は殆どないようです)。しかしなぜこんな言い伝えがあるのでしょうか。日本は古来より農業を主として営んできました。特に稲作です。稲の穂が出る頃に、ちょうどこの時期に当たるのです。農家の人達は、この時期に台風が来て、稲作に大きな被害がでて、大変なことになるのを心配してのことだと思えます。

先日、播磨北西部の佐用地区が台風9号によって甚大な被害を受けました。早く復旧されることを心からお祈り致します。

災害はいつ起こるか分かりません。皆さんも自然災害に日頃から気をつけて、防災グッズを備えるなど、また、もし何かがあれば、おうちの方々とのように連絡を取り合うのか、どこに避難するのか等、話し合うことも大変重要な事ではありませんか。

台風の発生数は年間で26.7個、そのうち10.8個が日本に接近、日本上陸が2.6個。上陸数は8月~9月に多い。しかし2004年は10個が上陸した。そのため各地に大きな被害をもたらした。しかしその時の発生数は平年と変わらない29個であった。接近上陸が多くなった原因は6~7月と10月に小笠原高気圧が例年より北に位置していたため、高気圧の縁を回る台風が日本に接近し易かったためです。

過去の大きな被害をもたらした台風の一例

台風通過地名

1950年	9/2~4	ジェーン台風	962 hpa	43.2 m/s	死者行方不明	539人	四国	近畿	日本海
1945年	9/17~18	枕崎台風	916.6 hpa	63 m/s	死者行方不明	3122人	枕崎	瀬戸内	豊岡
								能登	東北
								三陸沖	
1959年	9/26	伊勢湾台風	929.5 hpa	59.3 m/s	死者行方不明	5098人	紀伊半島	奈良	三重
							日本海	八戸	根室